

接種前に必ずお読み下さい

## 【黄熱予防接種の注意事項】

- (1) 予防接種室に入室しましたら、ご本人確認のため、ご自身のお名前をフルネームで医師にお伝えください。
- (2) 黄熱ワクチンは生ワクチンです。他の生ワクチンとの接種間隔は27日以上と決められています。黄熱ワクチン接種前後にその他のワクチンを接種または接種予定がある場合は、必ず医師にお知らせください。
- (3) 医師が接種時にアルコール消毒や手袋を使用します。アルコールアレルギー、ラテックスゴムアレルギーがある方、その他アレルギーがある方は接種前に医師にお知らせ下さい。
- (4) 接種に関して何か心配事があれば、接種前に医師にご相談ください。
- (5) 予防接種後30分は帰宅できません。急激な副反応は、接種後30分以内に起こりますので、その間は予防接種待合室でお待ちいただきます。体調に異常を感じた場合は速やかに職員にお声かけください。
- (6) **【女性の方へ】**  
弱毒生ウイルスを使用している黄熱ワクチンは胎児への安全性が確立していません。接種後2ヶ月間は妊娠を避けるようにして下さい。また直接授乳を介して乳児に黄熱ウイルスが移行する可能性があることから、直接授乳はできるだけ4週間停止して下さい。
- (7) **【60才以上の方へ】**  
特に重篤な副反応の発現率は60才以上の方に高いと報告されています。接種後10日間の健康状態に留意するようにして下さい。
- (8) 接種当日はいつもの通りの生活をしていただけますが、飲酒・激しい運動等は避け、注射部位を清潔に保って下さい。入浴は、接種後1時間以上経過すれば差し支えありませんが、注射した部位は強くこすらず、泡立てた石けんで優しく洗ってください。
- (9) 接種を受けた数時間後から約12日目の間に、接種部位の発赤や腫れ、又は発熱、頭痛、筋肉痛、背部痛、全身倦怠感、極めてまれに発疹（じんましん）等がみられることがあります。通常2～3日中におさまります。高熱、けいれん、その他、症状が異常と思われたときは、速やかに医師の診察を受けるとともに、当検疫所へご連絡下さい。

### 【連絡先】

厚生労働省広島検疫所 検疫衛生課 予防接種担当

TEL (082) 251-2927

裏面もお読み下さい

## 【黄熱予防接種を希望される方へ】

### 1 疾病の概要

黄熱は感染蚊により媒介されるウイルス性の感染症です。黄熱という名は、患者の一部で黄疸症状が起こることからきています。短期間に様々な症状を起こす急性疾患で、通常、3～6日の潜伏期間の後、突然の発熱、頭痛、筋肉痛、悪心、嘔吐、羞明（異常にまぶしさを感じる）などを起こします。進行すると出血症状（鼻血、歯肉からの出血、吐血、黒色便）や蛋白尿が現れます。流行地の人の死亡率は5%以下ですが、旅行者などでは50%以上になることがあります。

### 2 海外における疾病の状況

アフリカ及び中南米の国々を中心に患者発生がみられます。流行地域への旅行者は予防接種を受けるなどの注意が必要です。黄熱には都市型、森林型、都市・森林混在型があります。都市型は黄熱患者の血液を吸った蚊（ネッタイシマカ）に刺されることで他の人に感染します。森林型は猿と蚊の間に感染共生サイクルがあり、森林に入った人がウイルス保有蚊に刺され感染します。

### 3 ワクチンの組成

黄熱ウイルス（17D-204株）をニワトリ胚組織培養の継代を重ねて弱毒させたウイルスを発育養鶏に接種して作った生ワクチンです。安定剤としてソルビトール、ゼラチン（ゼリー）を含有している凍結乾燥製剤で防腐剤は加えられていません。

卵及びゼリーに対してアレルギーのある人は、原則接種できません。

### 4 ワクチンの用量と適用

接種は1回量0.5mlを1回皮下に注射します。成人も小児も同量を注射します。

黄熱ワクチンは、9ヶ月齢未満の乳児には接種できません。妊娠又は妊娠している可能性のある婦人には接種しません。（妊娠中の接種に関する安全性は確立していません。）

また授乳中の婦人には接種しないことが望ましいとされています。

### 5 ワクチンの副反応（安全性）

黄熱ワクチンの副反応は概ね軽いものです。黄熱ワクチン添付文書によると、2001年に米国の9施設で実施された安全性成績では、軽い副反応発現率は71.9%でした。（接種部位の発赤、痛み、硬結、かゆみなど）

また、接種後数日の間に、軽い頭痛、筋肉痛、関節痛、微熱などの全身症状が10～30%の接種者に認められます。重大な副反応は非常にまれです。（脳炎は20万人接種に一人。多臓器不全は40万人接種に一人。ショックは頻度不明）高齢者では生理機能（免疫能力など）が低下していますので、接種後10日間は自分の健康状態に注意を払って下さい。

国際予防接種証明書は、初回接種の10日後から生涯有効です